

## 「宗教心」

小笠原 人

最近よく聞く話で、宗教離れということがあります。私は20代後半ですが、例えば同級生に「自分の家の宗派わかる？」と聞くと、ほとんどの人が答えられません。また、法事で伺ったお宅でも、若い方に「うちの宗派わかりますか？」と聞くと、答えられない方がいらっしやいます。さらに詳しく聞くと、一番多かったのは、「そもそも宗教に興味がない」という意見でした。さらにその親の世代になると、「宗教というものが怖い」という意見もありました。新興宗教の問題もあるのでこう言った考え方を持たれる方も多いと思いますが、一僧侶として悲しいです。そして、これが今の世の中の現実なのかもしれません。

色々なものが多種多様化し、好きな事を好きなように言える現代だからこそ、宗教に対する思いが薄れてきているののかもしれません。

しかしながら現代の日本では、年が明ければ初詣から始まり、節分やお盆にお彼岸、クリスマス、年末に除夜の鐘といった宗教行事を受け入れているという事実が存在します。恐らく全く意味を知らずにやっている方は少ないでしょう。本当に宗教に興味がなければ、このような行事も成り立たないと思います。私たちの心の片隅に宗教というものが根付いているからだと思います。ただそれが身になっていないだけで、現代では溢れる情報によって見えなくなってしまっているののかもしれません。

ですから、その様な宗教離れをした方々が宗教というものに向きあえる機会、現代では葬儀や法事でしか深く関わる機会が無いと思います。少し足を伸ばしてもらえば、真宗の教えに触れる機会はいくらでもあります。自分の事で精一杯で、生き急いでいる現代だからこそ、一度立ち止まって宗教ということ、真宗の教えに耳を傾けてもらえたら初めて分かることがあると思います。これからの若い世代は宗教に対する感覚がまだまだ白紙に近いと思いますので、少しずつでも真宗の教えを通して、宗教の大切さを分かってくれるように持っていったらいいかなと思います。